

# 中学校地理的分野における単元「地域の在り方」の開発

弘田真基<sup>\*1</sup>・上畑直久<sup>\*2</sup>・水山光春<sup>\*3</sup>

## Development of Junior High School Geography Unit “Regional Issue”

Masaki HIROTA, Naohisa UEHATA, Mitsuharu MIZUYAMA

**抄 録**:平成29年告示の学習指導要領では、先進国を中心とする世界的なコンピテンシー・ベースのカリキュラム改革の動向を背景に、「何ができるようになるか」という「資質・能力」の育成が教育目標の中心となっている。これを受け、中学校社会科地理的分野では中項目「(4) 地域の在り方」が新設され、空間的相互依存作用や地域などに着目し、地域で見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する力を育成することがめざされる。本研究では、京都市の公共交通を事例に「地域の在り方」の単元モデルを提示する。

**キーワード**:地理教育, 地域の在り方, 空間的相互依存作用, 公共交通

### I. 研究の目的

先進国を中心とする世界的なコンピテンシー・ベースのカリキュラム改革の動向を背景に、令和3年度から中学校で全面実施が始まった学習指導要領（平成29年告示。以下、「現行学習指導要領」と略す）では3つの柱から構成される資質・能力の育成がめざされている。社会科では「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」の育成がめざされ、地理的分野では中項目「(4) 地域の在り方」が新設され、空間的相互依存作用や地域などに着目し、地域で見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する力を育成することがめざされる。

本研究の目的は、京都市を事例とした「地域の在り方」の単元モデルを提示することである。単元開発に当たり、中項目「(1) 地域調査の手法」と接続させた大単元として構成するとともに、地域で見られる地理的な課題を考察・構想する際に着目する空間的相互依存作用として公共交通を取り上げることで、資質・能力の三つの柱を統合的に育成することをめざす。

### II. 中項目「地域の在り方」の特色

現行学習指導要領における中学校社会科地理的分野の内容は、平成20年公示の学習指導要領（以下、「旧学習指導要領」と略す）からどのように変化したのか。学習指導要領の新旧比較を表1に示す。

<sup>\*1</sup> 京都市立桃山中学校

<sup>\*2</sup> 京都市立向島東中学校

<sup>\*3</sup> 京都橘大学

表1 学習指導要領における中学校社会科地理的分野の内容の新旧比較

旧学習指導要領（平成20年告示）	現行学習指導要領（平成29年告示）
(1) 世界の様々な地域 ア 世界の地域構成 イ 世界各地の人々の生活と環境 ウ 世界の諸地域 エ 世界の様々な地域の調査 (2) 日本の様々な地域 ア 日本の地域構成 イ 世界と比べた日本の地域的特色 ウ 日本の諸地域 エ 身近な地域の調査	A 世界と日本の地域構成 (1) 地域構成 B 世界の様々な地域 (1) 世界各地の人々の生活と環境 (2) 世界の諸地域 C 日本の様々な地域 (1) 地域調査の手法 (2) 日本の地域的特色と地域区分 (3) 日本の諸地域 (4) 地域の在り方

旧学習指導要領における世界や日本の地域構成や地域的特色などの項目は残された一方、「(1) 世界の様々な地域」と「(2) 日本の様々な地域」の両方で設置されていた「エ 身近な地域の調査」は、現行学習指導要領では「(1) 地域調査の手法」としてまとめられた上、「(4) 地域の在り方」が新設された。

「(1) 地域調査の手法」では、学校周辺の地域の地理的な事象を学習対象とし、実際に校外での観察や野外調査をして、地理的な事象を見出し、事象間の関連の発見過程を体験することで、地域調査に関わる地理的技能を身に付けることがめざされる。一方、「地域の在り方」では、空間的相互依存作用、地域などに関わる視点に着目し、地域の在り方を地域的特色や地域の課題と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することがめざされる。また、「地域の在り方」は中学校社会科地理的分野の最終単元であり、世界と日本の様々な地域で学習した知識や概念、技能を生かすとともに、地域の課題を見出し考察するなどの社会参画の視点を取り入れることで探究的な地理的分野の学習のまとめとして行い、主権者として地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を育むことがめざされる。

### Ⅲ. 「地域の在り方」の単元モデルの開発

本章では、京都市を事例とした「地域の在り方」の単元モデルの開発を行う。「地域の在り方」では、地理的な課題を多面的・多角的に考察、構想し、表現するに当たり、空間的相互依存作用や地域などに着目しながら、課題を追究したり解決したりする活動を授業者が組織することが求められる。単元構成では、地域における地理的な課題を地域の内外の結び付きや地域の変容から考察するとともに、持続可能性を視点としながら、地域の在り方を構想することが考えられる。

京都市は、世界有数の観光地であるとイメージされる一方、観光公害（オーバーツーリズム）や郊外の高齢化・過疎化などの地域によって異なる課題も有している。これらの課題を空間的相互依存作用によって改善する方途を見出すことが京都市民としての生徒にとって重要な学習となる。より具体的には、公共交通の在り方を見直し、構想することで、地域間の課題を解決する学

習を構成する。本研究では、中項目「(1) 地域調査の手法」と「(4) 地域の在り方」とを接続した単元を開発することで、地理的な技能と主権者として社会に参画しようとする態度とを統合的に育成することをめざす。以下に単元の概要を示す。

(1) 単元名 歩くまち・京都 観光プランGP

(2) 単元目標

(知識・技能)

- ・教科書や資料から必要な情報を収集・読解・吟味し、事実に基づく知識を習得している。
- ・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解する。
- ・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的スキルを身に付ける。
- ・地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解する。

(思考・判断・表現)

- ・地域調査の対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・地域で見られる地理的な課題について、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、多面的・多角的に考察し、地域の在り方を構想し、表現する。
- ・複数の資料と多様な視点（効率と公正、持続可能性など）に基づきながら、解釈や価値観を認識・構築する。
- ・自分の見解を多様な視点に着目しながら、説明・提案したり、他者と議論したり、より説得力のあるものに発展させたりする。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・よりよい社会の実現を視野に地域で見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

パフォーマンス課題「歩くまち・京都 観光プランGP」

各校区の特徴を生かした観光プランを作成し、他校のプランと比較することで、相互の良さ・改善点を共有するとともに、それぞれの地域をつなぐ相互作用を見出す。

## (3) 単元の指導計画

	学習内容や学習課題	資料
課題把握	<p>○京都市の財政はどのような状況にあるのか。それはなぜか。</p> <p>○京都の観光を復活させるために克服すべき課題は何か。</p> <p style="text-align: center;"><b>パフォーマンス課題「歩くまち・京都 観光プランGP」</b></p> <p>◎観光復活に生かせそうな地域の特色を自分たちの校区から探してみよう。地域をよりよくするためには、どのようなことに取り組むとよいのだろうか。</p>	<p>①京都市を訪れる観光客数の変化、②京都市において地域の在り方を考える視点の例（環境や景観の保全、人口の増減・移動、産業の転換や流通の変化、防災・減災、伝統文化の変容など）</p>
要因の考察	<p>◎私たちは京都市民だが、京都市のことを本当はどれくらい知っているのだろうか。京都市の地図に自分の生活圏を書き込んでみよう。</p> <p>○普段どのような公共交通を利用するか。</p> <p>○地域の実態を把握するためには、どのような手順で進めるとよいのだろうか。教科書を参考に、調査計画書とルートマップを作成しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査テーマを考えよう。</li> <li>・調査テーマを追究するために、何を、どのように調べればよいか。</li> <li>・どこに、何があるのか。どのような場所か。</li> <li>・そこはどのような場所だろうか。</li> <li>・そこでの生活は周りの自然環境からどのような影響を受けている、または与えているだろうか。</li> <li>・そこは、それ以外の場所とどのような関係を持っているだろうか。</li> </ul> <p>○歴史、産業などを調べ、地域の特色（強み）と課題（弱み）とは何か考えよう。</p> <p>◎実際に自分達の校区を歩いてみよう。作成したルートマップに沿って野外調査を行い、メモやスケッチ、撮影などで記録する。</p> <p>◎調査結果の分析方法とまとめ方を考えよう。</p> <p>○どのような特色と課題があるのだろうか。類似点と相違点は何だろう。成功・失敗した理由・秘訣は何か。</p> <p>○表やグラフ、主題図などを作成し、地域の特色や課題を見つける。</p> <p>○どの資料から、どのようなことが分かったのか、整理しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな行先のバスがたくさん走っている</li> <li>・外国人観光客の訪問先は清水寺や祇園など一部に偏っている</li> <li>・住民や日本人観光客はバスの混雑に困っている など</li> </ul> <p>◎他地方、他都市、他国の観光プランを収集し、京都市と比較しよう。</p> <p>○どのような課題を抱え、その要因は何だったのか。</p> <p>○地域ではどのような取り組みが行われてきたのか。解決に向けた多様な選択肢を知り、課題解決に向けた見通しを立てる。</p> <p>◎その地域の取り組みは京都市に応用できるのか。</p>	<p>③調査計画書の例</p> <p>④京都市の公共交通の路線図</p> <p>⑤外国人観光客が訪れた観光地の地図</p> <p>⑥類似の課題を抱えた地域や課題解決に役立ちそうな事例を書きだした例</p>

将来の構想	◎課題の解決にはどのような取り組みが大切か、課題の要因を踏まえて解決策を考えていく。 ◎住民と観光客など、異なる立場の人々にとって、それぞれどんな利点や課題点があるのか。	
成果の発信	◎構想したことをレポートやポスター、報告書などにまとめる。 ○タイトルやテーマ、動機や目的、調査方法、調査結果と考察、構想、結論、参考文献などを端的に記述。地図やグラフ、写真などを交えて作成。 ◎なぜそのように考えたのか、根拠は何か、説明する。他のグループの発表を聞いて、さまざまな側面から解決策を見直す。 ◎費用や継続性などの面で無理な点がないか。実現可能性や持続可能性はどの程度あるか吟味する。 ◎学校内や地域の方々にも発表して、意見や評価をもらい、次の機会に生かせるようにする。 (学校の文化祭、市町村役場に提言、調査協力者に送付など) ◎各校区で観光プランを発表。比較し、良さ・改善点を共有するとともに、地域の特色やそれぞれの地域をつなぐ相互作用を見出そう。	⑦プレゼンテーションソフトやポスターなどの例

#### IV. 本研究の成果と課題

本研究の成果として、中学校社会科地理的分野で新設された中項目「(4) 地域の在り方」について、京都市の公共交通を事例に単元モデルを提示することができたことが挙げられる。一方、本単元は令和4年度の中学校第2学年から本格的に実践することが想定される。他教科や総合的な学習の時間との連携も視野に各学校で実践し、単元の実践可能性や学習効果を検討することが今後の課題である。

#### 引用・参考文献

石井英真（2015）『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影—』日本標準ブックレット

上畑直久（2021）「20 地域の在り方—持続可能な地域を構想する」草原和博・大坂遊編『学びの意味を追究した中学校地理の単元デザイン』明治図書

3蟹江憲史（2020）『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書

京都市「歩くまち京都 バス・鉄道の達人」〈<http://www.arukumachikyoto.jp/index.php?lang=ja>〉（閲覧日：令和3年11月15日）

京都市「京都のこれから発信局」〈<https://www2.city.kyoto.lg.jp/koho/taidan2021/interview01.html>〉（閲覧日：令和3年11月15日）

京都市（令和3年8月）「行財政改革計画 2021-202」〈<https://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/>

- cmsfiles/contents/0000284/284994/keikaku. pdf> (閲覧日: 令和3年11月15日)
- 京都市営地下鉄利用促進プロジェクト「地下鉄に乗るっ」<<https://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/page/0000215552.html>> (閲覧日: 令和3年11月15日)
- 京都市交通局 (1978) 『さよなら京都市電』京都市交通局
- 京都市情報館「本市財政の課題」<<https://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000276230.html>> (閲覧日: 令和3年11月15日)
- 草原和博・溝口和宏・桑原敏典編 (2015) 『社会科教育学研究法ハンドブック』明治図書
- 京阪電気鉄道株式会社「京阪線パーク&ライド」<<https://www.keihan.co.jp/traffic/safety/parkandride/index.html>> (閲覧日: 令和3年11月15日)
- 高橋弘・高橋修 (2012) 『よみがえる京都市電 市営化から100周年, 車両・停車場・街角の懐かしい記憶』学研
- 東京大学未来社会協創推進本部監修 (2021) 『東大×SDGs』山川出版社
- 永田成文 (2013) 『市民性を育成する地理授業の開発—「社会的論争問題学習」を視点として—』風間書房
- 野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原丈明編 (2017) 『ジオ・バルNEO—地理学・地域調査便利帖— [第2版]』海青社
- 原田智仁 (2018) 『中学校新学習指導要領 社会の授業づくり』明治図書
- 三藤あさみ・西岡加名恵 (2010) 『パフォーマンス評価にどう取り組むか—中学校社会科のカリキュラムと授業づくり—』日本標準ブックレット
- 文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 社会編』東洋館出版
- まいまい京都<<https://www.maimai-kyoto.jp/>> (閲覧日: 令和3年11月15日)
- 読売新聞オンライン「京都市財政破綻の危機, 28年度にも再生団体…1600億円の収支改善案」<<https://www.yomiuri.co.jp/local/kansai/news/20210526-OYO1T50002/>> (閲覧日: 令和3年11月15日)